福井県高Ｐ連会報

発行人　福井県高等学校ＰＴＡ連合会
（福井県生活学習館）「ユー・アイふくい」内）　増　永　哲　也

第40回全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門での福井農林高校の発表風景（優秀賞・文化庁長官賞受賞）

北信越地区高Ｐ連研究大会 福井大会盛大に開催！

「再発見！愛
～今こそ信じよう愛の絆～」

平成二十八年度北信越地区高Ｐ連研究大会福井大会が、去る七月八日（金）・九日（土）福井フェニックスプラザを主会場に、北信越地区五県から約千二百名の会員が集い、本県からも四百二十名が参加して開催されました。

開会式で、増永哲也実行委員長が、「私たちは、子どもたちが自ら夢を見出し、その夢を育み実現していけるよう様々な支援をしていく必要があります。情報端末機器等が普及し、コミュニケーションの原点である人と人との触れ合い、関わり・つながりが薄れてきている今だからこそ、何をしなければならないかを真剣に考えたいと思います。この大会が、家庭・学校・地域社会、さらには子どもたちとの愛の絆を築き上げる一助となるよう期待しています」と、また、牧田和樹全国高Ｐ連副会長は「この研究大会は会員の皆さんの研鑽の場です。有意義な研修になることを願っています」と挨拶しました。その後、長年ＰＴＡ活動に尽力され、功績のあった三十三名の方に表彰状が授与されました。

本県の栄えある受賞者

藤島高校ＰＴＡ会長　内上　和博
高志高校ＰＴＡ会長　土谷　秀靖
福井商業高校ＰＴＡ会長　長谷川義則
大野高校ＰＴＡ会長　松本　成樹
鯖江高校ＰＴＡ会長　山本　英雄
県高Ｐ連事務局長　太田　和紀
（敬称略・役職は平成二十七年度）

表彰に引き続き、西川一誠福井県知事が「福井県では、小中高と福井型十八年型教育というのを進めているところです。地域で様々な課題を抱えていると思いますが、子どもに関心をもっていただき、学校との縦の関係のみならずＰＴＡ会員同士の横のつながりも大切にしていただいて子どもの幸せのために頑張ってほしいと念願しています」と祝辞を述べられ、東村新一福井市長からは「福井市には歴史や文化に触れていただける場所が多くあります。福井の美味しい食とともに歴史・文化をご堪能ください」と歓迎の言葉があり、開会式は終了しました。

開会式後のアトラクションでは、福井農林高校郷土芸能部が元気溌剌とした素晴らしい太鼓演奏を行いました。

「Ｔａｉｃｈｉ」という愛称で親しまれている同部は、全国総合文化祭をはじめ数々のコンテストで受賞しているだけあって、その演奏は参加者たちの心を強く揺さぶり、会場は熱気と感動の渦に包まれました。

その余韻が残る中、四つの会場に分かれて分科会が開催され、各県の高校が実践発表を行いました。

＊福井県の実践発表

第一分科会『高校教育とＰＴＡ』

「高校教育とＰＴＡ
―Ｐ・Ｔ・Ｓの協同の取り組み―」
丹生高校ＰＴＡ会長　河崎　淳一

第二分科会『進路指導とＰＴＡ』

「子どもと保護者の進路意識と知識の高揚のためのＰＴＡ活動」
（全国大会千葉大会でも発表）
福井農林高校ＰＴＡ副会長　山口　由美

第三分科会『生徒指導とＰＴＡ』

「本校の生徒指導とＰＴＡ
―ふれあいを大切に、生徒の健全な育成を目指して―」
若狭東高校ＰＴＡ会長　辻井　裕二

第四分科会『家庭教育とＰＴＡ』

「家庭教育とＰＴＡ
―伝統を引き継ぎ未来へと―」
坂井高校ＰＴＡ会長　下出　良一

「北信越大会、全国大会発表を通じて」
福井農林高等学校　山口　由美

福農のＰＴＡは楽しい。そんな噂通りの楽しいＰＴＡ活動を紹介する機会を与えて頂きました。とは言っても格別に他校と違った特色あるＰＴＡ活動をしている訳でもなく、楽しいだけの活動を発表して良いのか？と悩みました。福農ＰＴＡの強みは何か？みんなの仲が良いところ。地域との交流が盛んで、学校、保護者、地域の垣根が低いところ。子ども達を思う気持ち。そうだ、自慢できることはあるじゃないか。真心を込めて発表させて頂きました。緊張の中の発表でしたが、高Ｐ連で知り合った方々に応援して頂き大変心強かったです。また県外のＰＴＡの方たちとも交流を持つことができ、一生の内に二度とないであろう貴重な経験をさせてもらいありがたく思っています。最後に発表に当たり資料作成にご尽力下さった松田先生、空撮を行ってくれた松浦様に感謝申し上げます。

二日目は、「宇宙開発という仕事と意義」と題して、田辺（たなべ）義慶（よしちか）氏（三菱重工業㈱防衛・宇宙ドメイン　宇宙事業部　宇宙システム技術部計画課　主席チーム統括）の記念講演がありました。田辺氏は、藤島高校出身で、Ｈ-ⅡＡロケットの飛行解析やＨ３ロケットの開発業務に携わっておられ、これからの宇宙へのご自身の思いや、組織における人材育成などについて話されました。「日本が遅れている分野に宇宙観光があり、世界ではすでに実験には何度も成功し、あとは人を乗せるだけの状況にある。また、現在、世界が力を入れているその他の分野に有人探査があるが、財政的に単独でできる国はなく、この分野を成長させるには国際協力が必要である」と先進地の取り組みや今後の課題、チームワークの大切さについてもＰＴＡ活動を交えながら熱く語られていました。また、さらには家庭内での親子の信頼関係の大切さなど多岐にわたって、日頃思っていること、心掛けていることなども話され、たいへん有意義な時間を過ごし、このようなすばらしい技術開発者が本県出身であることに誇りを感じた記念講演でした。

講演に引き続き行われた閉会式の冒頭、佐野元彦全国高Ｐ連会長が、「社会が大きく変わり、将来人間がやっている仕事の半分がＡＩにとって変わる時代が来ます。その時我々人間は何をすればいいのか。知能・技能を身につけることはもちろんですが、それを活用して思考・判断をし、かつそれを表現する能力が必要になります。自ら主体的能動的に取り組み、多くの人と協議して問題解決を図っていく態度が必要です。本日参加された方々が、子どもたちに希望のある未来を創っていけるＰＴＡ活動を展開してくださることを期待しています」と共催者としての挨拶を行いました。

その後大会宣言文を採択し、次年度開催県の石坂兼人富山県高Ｐ連会長が「来年は富山県にお越しください」と挨拶され、二日間に渡って開催された大会は成功裏に幕を閉じました。

本大会のためにお手伝いいただいた方々、本当にありがとうございました。

（敦賀高校ＰＴＡ会長 馬渕清和）

全国高Ｐ連大会千葉大会
『再発見！愛 ～今こそ信じよう愛の絆～』

千葉市の幕張メッセを主会場に八月二十五日(木)・二十六日(金)の二日間に亘り、第六十六回全国高Ｐ連大会千葉大会が、『再発見！愛～今こそ信じよう愛の絆』をテーマに全国各地から約一万余名、本県からは百四十一名が参加して盛大に開催されました。

冒頭の感動は、千葉県下の高校生による吹奏楽の歓迎アトラクションで、若さ・活気に溢れる生演奏に会場から大きな称賛が響いていました。

開会式の冒頭、大木実行委員長が「日頃勝てない野球部員に監督が野球に勝つためには心・技・体だけでは不十分でプラス「愛」がないと勝てないし、強くなれないと聞いたことがある。家庭・地域社会・学校の絆、そして正にＰＴＡ活動そのものが『愛』を基盤にしていることが再認識出来、大変感銘した。今回『愛』をテーマとして掲げ、参加の皆さんにも『愛』を再発見していただき、子供達の健全育成に繋げて欲しい」と挨拶されました。

佐野全国高Ｐ連会長の式辞、松野文科大臣の祝辞に続き、森田健作千葉県知事から自身の高校時代を振り返り、「何を考え、悩み、葛藤し、その中で友人、教師、家族とどう係わり合って解決し、成長して行ったのか。一人一人顔が違うように、必ず有る子どものオンリーワン＝個性、得意なことを自身が見つけ、伸ばすことが大事。社会に出た時に、その個性で何が出来るのか、何を担うのかを考え、判断出来るように育てる、サポートするのが家族、学校、地域、ＰＴＡの役割である」とパフォーマンスを交え元気で篤い言葉がありました。

引き続きＰＴＡ活動に功績のあった個人、団体に文科大臣、全国高Ｐ連会長より表彰状が授与されました。おめでとうございます。

文部科学大臣表彰
美方高等学校ＰＴＡ

全国高Ｐ連会長表彰
個　人
丹南高校ＰＴＡ会長　伊東 義之
若狭東高校ＰＴＡ会長　渡邉 英明

団　体
勝山高等学校ＰＴＡ
丹南高等学校ＰＴＡ

役員等表彰
高Ｐ連事務局長　太田 和紀

（敬称略・役職は二十七年度）

「文部科学大臣表彰を受賞して」
美方高校ＰＴＡ会長　大山　吉之

千葉大会の開会式にて優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰をいただきました。全国で三十三校、福井県では本校のみの受賞ということで大変名誉なことです。これまで長年に亘ってのＰＴＡ活動が評価されたもので、諸先輩方のご尽力の賜と感謝しています。今後も微力ながら、地域の皆さん、先生方、ＰＴＡの広報、進路、生活、文化のそれぞれの委員会と協力・協調し、時代の変化に対応した中身の濃い活動をしていきたいと考えています。皆様方のご指導ご鞭撻の程お願いいたします。

開会式後、千葉敬愛短期大学学長の明石要一氏から『高校生の自立を支援するＰＴＡ活動の在り方』～今こそ信じよう高校生を～、と題した基調講演がありました。『大きく変革し続ける社会に対して、真の生きる力を身に付け、自立した人に育てて行くためのＰＴＡの在り方』について様々な事例を基に分かりやすく話され、大変勉強になりました。氏は家庭、学校、ＰＴＡに対し、①高校生の生活習慣徹底のため『早寝、早起き、朝ごはん』を推進すること、②自分で考えて意見が言え、決断できる子供の育成のため、家庭、学校でロールプレイする機会を作ってほしい③学校内・外の教育の場で『褒めて、叱って育てる』を基本に、自分のポジションを見つけさせることの三つの役割提言をされました。地域力と文化、教育に関する話題では、高学力、住み易さ、三世代家族、実家規模、貯蓄、低塩分摂取量、病院数、図書館入館者、本を借りる人などを総合して『福井県が全国一優秀』であると話され、大変誇らしく感じました。

午後からは七つの分科会に分かれ、各校ＰＴＡ活動の事例発表と研究協議や、基調講演とパネルディスカッションが開催されました。本県からは第二分科会「進路指導とＰＴＡ」で福井農林高校ＰＴＡ副会長の山口由美氏が、実践発表を行いました。

二日目は千葉県出身の女優、市原悦子氏より『私が選んだ女優の道』と題し記念公演がありました。舞台、映画、テレビ、朗読、著作と幅広いエンターテイナーとして活躍されている女史の学生時代から変わらぬ夢＝自分がやりたい仕事、生涯の生きる道を目標に邁進して来られた半生を伺いました。途中にグリム童話と日本昔話の二つの話を朗読され、まさしく記念公演でした。

その後、各分科会の研究報告・大会宣言の採択・次年度開催地の静岡県高Ｐ連会長の挨拶があり、二日間の全国大会の幕を閉じました。

今後も大会テーマの『愛』を意識し、再発見しながら、子どもたちの今と未来を見据えた、フレキシブルなＰＴＡ活動を継続していこうと強く思う千葉大会でした。

（勝山高校ＰＴＡ会長　吉田治彦）

平成二十八年度

福井県高Ｐ連研究大会開催～講演と実践発表～

高Ｐ連研究大会が十一月五日(土)福井パレスホテルで各校から百四十二名の会員が参加して開催されました。昨年度まで、県生涯学習センター主催で開催されていたＰＴＡ指導者地区別研修会が中止になったことから、講演に新たに、三校のＰＴＡ活動の実践発表を加えて実施しました。

開会式では、まず始めに増永哲也福井県高Ｐ連会長が「今、子供達を取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。子供達を巻き込んだ事故事件も多発し社会的問題も増えている状況の中、子供達が直面する問題に真剣に向き合い、相談相手になるために親としての自己研鑽が必要であり、今日の研修会がその一助になれば有難い」と挨拶しました。続いて、県教育庁高校教育課の佐々木栄秀課長が祝辞の中で、日頃の高校教育振興への協力の謝意と高校教育への課題について述べられました。また、県高等学校長協会長の藤澤春和武生高校長からは、大きな変革の時代にあって、保護者と学校の協力、学校間の連携の必要が重要との話がありました。

開会式に引き続き、初めに福井県警察本部生活安全部少年女性安全課次席の安岡久信氏の「高校生が陥りやすい犯罪」と題した講演が行われた後、大野高校ＰＴＡ、福井農林高校ＰＴＡ、若狭東高校ＰＴＡが、それぞれの特色ある活動内容について発表しました。

講演・実践発表ともに、大変興味のある話を聞くことができ、今後の各校ＰＴＡ活動の一助となったことと思います。

講演

「高校生が陥りやすい犯罪」

福井県警察本部生活安全部
少年女性安全課次席　安岡 久信 氏

＊はじめに

少年犯罪には四回の波があり、平成七年から十五年までが第四の波。以降、減少傾向にあるが、県内でも恐喝、児童ポルノ等様々な事件が発生している。

＊非行少年の概況

平成十八年頃、七二五件。昨年二三四件発生。七割減少している。本年七月末で九七人、昨年同時期よりも五三人減少している。非行少年の中では高校生が一番多い。人口比で見ると例年福井市が多くなっている。やはり人口が多い都市部で起きている。初発型非行は平成十八年からは八割減ってきている。今年も昨年に比べ六割減っている。逆に再犯率は上昇している。十年前の一二・四％が昨年は三七・五％になっている。警察の取り組みとして少年サポートセンターで立ち直り支援を行っている。

また刑法以外の犯罪、迷惑防止条例、銃刀法、シンナー等の犯罪である特別法犯少年も減少しているが児童ポルノ等も含まれるので注視している。

＊不良行為少年

非行少年が減ってきているのに合わせ一緒に減ってきている。学職別で見ると高校生が一番多い。全体の四割を占める。喫煙、深夜徘徊は減ってきているが、七月二十二日からポケモンＧＯの影響で一時期、深夜徘徊が見受けられた。警察としては状況を見ながら取り組んでいる。

＊犯罪被害

犯罪被害も犯罪件数の減少に伴い減ってきている。平成十八年、一一五〇件あったものが昨年は五一八になっている。犯罪被害で多いのは窃盗で自転車を取られるというのが多い。昨年は四二六件で八四件減っている。

＊高校生が陥りやすい犯罪

①薬物に絡む犯罪

平成十八年頃まではシンナーが多かった。二十五、六年頃は違法ドラッグが増えたが今(二十八年)は覚醒剤、大麻、麻薬となっている。薬物は手を染めたら止められない。子供達に教えてほしい。

②ネット・スマホに絡む犯罪

平成十八年頃は出会い系サイトが主だったが、現在はコミュニティーサイトに移行している。双方とも児童ポルノ、児童買春、愛護条例違反が多い。事件の内容は、「ＬＩＮＥのやり取りでのトラブル」「自画像を送らされる」「家出少女が狙われるケース」「ツイッターで知り合った人との援助交際」等がある。「言葉で人を傷つけない」「知らない人に情報を教えない」「人のパスワードを使わない」「ファイルをダウンロードしない」「写真を送らない」等を、親は子供にしっかり教えてほしいし、家庭内ルールを決めチェックをすることが重要。子どもに何かあれば大人に相談してほしい。

③その他

振り込め詐欺で検挙される数が増えている。受け取りや引き出し役で子供を利用するケースがある。

十八歳に選挙権が引き下げられ、選挙に絡む犯罪が今後出て来る。送られてきた選挙のメールを転送しても違反になる。

実践発表

「親子の関係を見つめ直し　ともに成長を目指す取り組み」

大野高校　ＰＴＡ会　長　石森　充代
ＰＴＡ副会長　松本知恵美

以前は一学年八クラスだったが、近年は少子化の影響で一学年五クラス、今年の一年は四クラス規模になった。全校生徒の九割が進学する普通科高校。部活動も盛んで、文武両道をモットーに地元の子供たちのための地元の高校として頑張っている。

ＰＴＡは総務、補導、進路の三つの委員会に分かれ活動している。総務は機関誌の発行、学校祭での冷茶のサービスを行っている。進路は卒業生と語る会、進路ガイダンス、進路アンケート、職業発見講座等の企画運営を行っている。補導は、校門前交通指導、親と子のフリートークを担当している。

卒業生と語る会は昨年度より実施。三年生生徒、全学年保護者に対し高校での学習や進路決定、進学先の学習内容や学校生活等について話を聞き、今後の進路実現に役立てている。

親と子のフリートークは今年で十三回目。グループでの自由討論、全体発表、アンケートを行った。内容は多い順に携帯スマホ、進路、門限、生活面等の話題であった。

大野高校は生徒だけでなく保護者を対象にした活動が多いのも特徴。親子の関係を見つめ直し、ともに成長を目指すきっかけにしたい。未来に向かって、将来の夢と希望を語る機会を多く持てることを願っている。

「子供と保護者の進路意識と　知識の高揚のためのＰＴＡ活動」

福井農林高校ＰＴＡ副会長　山口　由美

創立百二十三年の農業専門高校。校地にはビニールハウスや田畑等を併設している。食と農、環境に関わる学習、体験学習を重視し生命産業を担うスペシャリストの育成に努めている。特徴的な学校行事として開校記念競歩大会、田植祭での農業鑑定競技、演習林体験実習や修学旅行でのファームステイ等が行われている。

ＰＴＡは総務、生徒指導、進路指導の三つの委員会に分かれ活動。総務は会報の発行と農文祭の蕎麦打ちの企画運営、生活指導はふれあいトークの企画運営と交通安全街頭指導、進路指導は進路説明会と就職模擬面接を行っている。

進路状況は四割が進学、六割が就職となっている。就職については県内希望が高く、業種別では製造業が多い。

ＰＴＡ総会に先立ちＰＴＡ講演会を開催している。進路検討の参考として、生徒保護者一緒に講演を聴いている。真面目な講演だけでなく、ミュージカルやライブ＆トークショー等を実施。

十月には一・二年の保護者対象に進路指導説明会を実施。進路を決める上で保護者の意識と知識の高揚は不可欠。説明会が一緒に進路を考えていくきっかけになっている。

九月上旬に模擬面接を行っている。本番さながらの緊張の下で行われ、先生とは違う視点からのアドバイスが聞けると評価されている。

子供と保護者の進路意識と知識高揚のため行事を企画している。どのような状況にあっても希望する進路実現のため、情報を把握し新たな取り組みを模索していきたい。

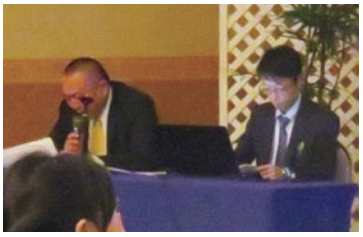
「生徒指導とＰＴＡ」

若狭東高校ＰＴＡ副会長　嶋口　彰

大正九年に創立され、平成三十一年に百周年を迎える。社会情勢の変化に伴い学校再編を経て、総合産業高校として新しい若狭東高校になった。一学年一八〇名程の中規模校です。

各科では総合的な学習の他、専門的な技術の習得や研究、難関資格の取得に積極的に取り組んでいる。昨年よりスパー・プロフェッショナル・ハイスクールに指定されている。

学校と家庭と社会が一体となり、教育や学校行事に積極的に参加し自らの教養の向上を図ることを目的に活動している。役員、地区委員は総務、研修、広報、補導の委員会に所属。総務はＰＴＡ活動の企画運営、研修は会員研修の企画、ふれあい喫茶の計画運営、広報は広報誌の発行、補導はＰＴＡ懇談会の計画や街頭指導等を行っている。



六月にはＰＴＡ地区別懇談会を行っている。内容は学校から教務、生活指導、進路指導等の報告および保護者を交えての質疑応答である。意見交換の場として有意義な場となっている。

生徒指導の一環として最寄りの駅で挨拶を交わす取り組みを行っている。また地域の伝統行事に出向き巡視を行っている。

研修委員会が中心になり学校祭で親子ふれあい喫茶を設け昼食を販売している。学校で触れ合うことで家とは違う一面を見ることが出来る。

ＳＰＨの指定校になり成果の発表の場として彦姫祭を実施した。ＰＴＡも積極的に関わりバックアップしている。

一人ひとり夢を実現する学校、地域と共に歩む学校、国際的な視野を養う学校を目指し子供達とふれあい、学校と情報交換し、地域との連携を大切にしながらＰＴＡ活動を通じて子供達の健全な成長を手助けしていきたい。

（三国高校ＰＴＡ会長　佐々木　智）

ちょっと おじゃましま～す！

この企画は、調査広報委員が直接「ちょっとおじゃま」し、伺った話の中から委員独自の感性でこれはと思われるものを紹介していくものです。

Introduction

羽水高校

秋も深まった十一月の初旬、羽水高校を訪問しお話を伺いました。

同校は福井市南部に位置し、昭和三十八年に開校した全日制の普通科高校で、現在一,〇〇〇人近い生徒が通学しています。

正面玄関には校訓の石碑があり「博學之、審問之、愼思之、明辨之、篤行之」と刻まれています。中国古典「中庸」から採られたというこの校訓は創立二十周年を機に昭和五十九年に改訂されたものだそうです。

井の字の形をした校舎の中庭は美しく整備されていて、四季折々に咲く花が生徒や先生方の心を癒しています。

続いてＰＴＡについてお聞きしました。同校ＰＴＡは「育成会」と称され、広報・総務・進路生活の三つの委員会で組織されています。

総務委員会では保護者・教職員を対象にした「育成会研修事業」の企画と実施や学校祭での模擬店、広報委員会では広報誌「育成会だより」を年二回発行しています。育成会活動状況の啓蒙の他、取材で学食を訪れ、高校生時代に戻って学食のメニューを一緒に食べてみるなど、学校の様子なども積極的に紹介しています。

進路生活委員会では、秋の数日間、登校時間に挨拶の声かけと交通指導を、また一年生を対象とした総合学習「社会人講師による講話」への講師の協力などを行っています。

それぞれの委員会で様々な学校行事に参加し、協力しながら生徒達の活躍を見守っていますが、なかでも春に行われる強歩大会では、休憩所での給水や危険箇所の誘導に大勢の保護者が協力し、長距離を歩く子供達を励ましています。

また、学校祭の模擬店では「育成会焼きそば」が恒例となり、今年は六〇〇食ほどの焼きそば、三五〇食のフランクフルトを完売して、生徒達や先生方の好評を得ました。最近は単に焼きそば等を販売するだけではなく、じゃんけんやゲームをして勝ったらおまけを付けるなど、生徒との交流も楽しんでいるとのことでした。

いろんな説明をお聞きして、役員・委員の皆さんが積極的にＰＴＡ活動を楽しんでいるのがよくわかりました。ご対応いただきました柿谷会長が目指していると仰っていた「明るく、楽しく、前向きな育成会」を着実に実現されている、そんな印象を持った今回の羽水高校訪問でした。

（取材：大野高校ＰＴＡ顧問　松本　成樹）

Introduction

武生商業高校

心地よい秋晴れの十月三十日、武生商業高校におじゃましました。

その日はちょうど「第二十六回武商業デパート」が開催されていました。渡辺祥子校長先生に伺ったところ、武商デパートは武生商業高校の一大イベントで、平成三年から課題研究授業の一つとして始まったそうです。正式な会社名は「武商デパート株式会社」で、社長以下部長・課長等の役職があり、生徒が中心となって仕入れから販売まで行うとのことです。生徒は武商デパートの株主・従業員で、株主総会や入社式もあるそうです。例年、多くのお客さんで賑わうそうです。武商デパートには、ＰＴＡも協力していて、敷地の片隅で『縁日広場』が開かれていました。いろいろな食べ物販売やヨーヨー釣り、スーパーボールすくい等もあり、大人から子供までが楽しめる縁日広場でした。あるＰＴＡ役員さんが「大変だけどやりがいがあるし、会員同士の絆が深まる貴重な行事だ！」と言われていたのと、ＯＢの方も楽しそうに参加されていたのが印象的でした。

また、ＰＴＡ活動の特色あるものの一つとして、学校カレンダーがあります。資格試験、定期試験、学校行事、ＰＴＡ行事等の年間行事予定をカレンダーとして配布することによって、学校の様子が一目で確認でき、子供への励ましや声掛けに大きく役立っているとのことです。

ＰＴＡの組織は、大きく分けると五つの部会があり、体育部会では保護者と先生の懇親を目的に、スポーツレクレーション大会を開催しているそうです。その後の懇親会も大盛況とのことです。教養部会では、ＰＴＡ会報誌『商魂』を年３回発行し、学校行事の案内や紹介をしていています。文化部会では、ＰＴＡ研修旅行の企画・運営をしていています。社会部会には二つの活動があり、一つは越前市補導委員会と連携した補導活動で、もう一つは、今回おじゃました武商デパートの縁日広場です。ＰＴＡ事業全般の企画等をする部会である総務部会の協力も得て、お客様のおもてなしをするそうです。

その他の活動として、学校祭での飲料水の配布や就職模擬面接、「生徒と保護者の語る会」等の企画・運営をしています。

商業専門校として、昭和四十年に創立されて以来、商業教育の先進校として一万名を超える人材を、産業界に送り出してきた特色ある学校のＰＴＡとして、これからも生徒たちを支えていきたいとおっしゃっていました。

今回は、武商デパート開催中のお忙しいところおじゃまさせて頂きありがとうございました。

（取材：足羽高校ＰＴＡ会長　和田　良教）

県教育長との懇談会

教育長との懇談会が十一月二十五日（金）に県庁正庁にて開かれました。県教委からは森近悦治教育長、古谷清和学校教育幹、佐々木栄秀高校教育課長の三名、当連合会からは増永哲也会長以下九名の役員と十五名の単Ｐ会長が参加しました。

懇談会での話題は次の四点です。

❶ 県立高校再編整備の今後の進め方について

❷ 高校生の就職状況と県の取組みについて（福井フューチャーマイスター制度の活用も含めて）

❸ 学習指導要領改訂、高大接続に関する改革等を踏まえた今後の教育改革の流れについて

❹ 高校生のいじめ、不登校等も含めた問題行動をなくすための取組みについて

四つの話題について、その概要をお伝えします。

❶少子化によって、現在の高校一年生よりも五年後には六〇〇名、十年後には九一五名、十五年後には一、六一七名の生徒が減少する見込みである。生徒の勉強、学校行事、部活動等を考慮すると、学校の規模は一学年四～八クラスが望ましいが、単なる数合わせではなく、生徒の地区を越えた進学状況や学校の特色づくりなどからも検討が必要である。丹南地区については、年度内を目途に地区別懇談会の開催について検討をするなど、協議を丁寧に進めていく。

❷十一月十八日時点での就職内定率は九〇・七％で、昨年以上のペースで推移しており、内定状況はどの学科もよい。また、昨年度からスタートした福井フューチャーマイスター制度は、認定制度と支援制度からなっている。認定とは、資格や意欲、活力等を点数化して合計点数に応じてマイスター認定する制度である。支援とは、難関資格（国家資格等）に挑戦する場合、受験料の三分の二を支援するものである。企業側へこの制度の認知を図っていく努力をしている。

❸文部科学省は知識の習得に偏りがちだった高校教育を改革するため、現中学二年生が大学を受験する平成三十二年度から、今のセンター試験に代えて思考力や表現力を測ることができる記述式を導入した「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」を始める方針である。詳細については未定。学習指導要領改訂の動きに伴い、県教委ではディベートや新聞記事を活用し話し合う授業、実験や考察をまとめて発表する課題研究などを充実し、思考力や表現力、自ら考え行動する力を身に付ける教育を推進していく。

❹福井県の高校におけるいじめ・不登校の件数は減少傾向にある。この問題は早期発見・早期対応が大切であり、各学校では、「学校いじめ防止基本方針」を策定し全教員で取り組み、中身も毎年チェックしている。学校内での情報共有や関係諸機関との連携、家庭の協力が不可欠である。目の届きにくいネット・スマホ等への対応も大切になる。合格者登校日に『スマートフォン利用ガイド』を全員に配付したり、県内全ての高校の生徒会参加のもと「ふくい高校生スマートサミット」を開いて、スマホ問題について話し合ったりする取組みを進めている。

予定の時間を超過しての懇談会となった。参加者からは、「あっという間の時間でした。福井県や教育長の考えがよく分かり大変勉強になりました」という感想をいただきました。

インフォメーション

キャリアガイダンス研修会および各校ＰＴＡ会長・担当者会議を平成29年1月28日（土）午後に開催します。研修会の講師は、「世界で2番目においしい焼きたてメロンパンアイス」で有名な三上史朗氏です。多くの会員の皆様の参加をお願いします。

事務局所在地
〒九一八―八二三五　福井市下六条町一四―一
福井県生活学習館二階
TEL　〇七七六―四一―四〇五三
FAX　〇七七六―四一―四〇二三

高校生総合保障制度

～事故受付状況と保険金請求手続きについて～

二〇一六年も終わりに近づき、高校生総合保障制度につきましても、数多くのご請求やお問い合わせが保護者の皆さまから当事務局へ寄せられております。今回は昨年度の事故受付状況と保険金請求手続についてご案内いたします。

一、事故受付状況について

二〇一六年九月までの直近一年間の事故受付状況ですが、事故累計で五三六件お支払いいたしました。内訳ですが、傷害医療費用補償のお支払いが一五七件、後遺障害保険金のお支払いも二件発生いたしました。事故の内容で、最も多いのは、例年スポーツ中の事故となっており、次いで自転車運転中の事故となっております。

この保障制度ではご自身のケガ以外に第三者への賠償事故も対象となっておりますが、今年度は二十五件報告されお支払いしております。誤って友人の持ち物を壊してしまったり、自転車に乗っていて歩行者や他の自転車と接触し大ケガをさせてしまうケースさえあります。

最後に、ケガだけでなく病気の入院を補償するプランに加入されている方もいらっしゃいますが昨年度は二十二件のお支払いがございました。疾病の内訳は熱中症やヘルニア、急性虫垂炎などです。昨今の医療費の増加傾向についてはご存知の通りです。今後は病気も含めた補償もお子さまの為にご検討頂ければよりご安心かと存じます。

二、保険金の請求手続きについて

〈ケガ・病気・賠償事故の場合〉

下記連絡先（**0120-300-399**（通話料無料）・二四時間受付）まで、お手元に加入者証をご用意の上、ご連絡ください。

必要書類等につきましてご案内いたします。

○中途加入に関するお問合せ先

高校生総合補償制度事務局
株式会社 アイル保険センター
〒910-0003
福井県福井市松本4丁目6番15号
TEL：0776-23-3419
（受付時間：9時～17時　土、日、祝日、年末年始除く）

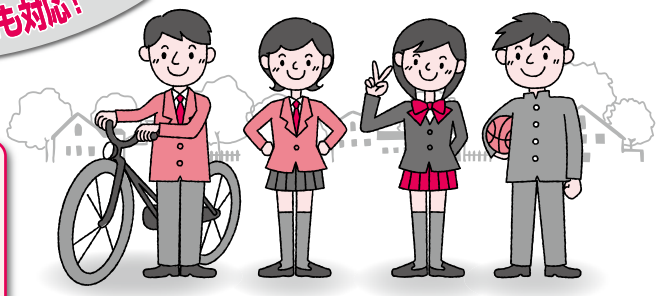
平成28年度版

福井県高等学校PTA連合会

高校生総合保障制度 ご案内

［こども総合保険＋自転車総合保険］

部活動によるケガや自転車事故によるケガ・個人賠償責任にも対応！



2016年12月現在の内容です。

本制度の特徴

大切なお子さまを補償期間（保険期間）中、学校が休みの日でも 1日24時間補償します

ただし、一部の補償は24時間補償ではありません。

自転車事故等による損害賠償責任も 最高2億円まで補償

示談交渉サービス* 付帯！

男子小学生が夜間、帰宅途中に自転車で走行中、歩行中の女性と正面衝突。女性が頭蓋骨骨折で意識不明 約9,520万円の賠償命令（神戸地裁判決）

＊示談交渉を行う場合は、被保険者および被害者の同意が必要です。

簡単支払特急便 スピード対応 お電話一本で手続き完了

ケガによる入院・通院で5万円以下のご請求は、電話による事故報告のみで保険金をお支払いします。

ハロー健康相談24

医師や経験豊かな看護師、臨床心理士などが、健康・医療・ストレスに関して電話でアドバイスします。医療機関に関する情報も提供します。

受付時間　24時間年中無休

- ◆夜間・休日の医療機関案内
- ◆真夜中の急病
- ◆ケガの応急手当
- ◆薬の不安・疑問
- ◆食欲不振
- ◆人に話しにくい病気

団体割引 15％適用

地震・噴火・津波補償

地震・噴火・津波による事故でケガなどをされた場合に補償します。

※プランによって補償項目が異なります。詳細はパンフレットをご確認ください。

育英費用高額プランのご案内

お子さまの将来のために **育英費用高額プラン**

※育英費用高額プランとは、基本プランの育英費用一時金100万円に400万円を上乗せするプランです。

引受保険会社：AIU損害保険株式会社

A-000694 2018-12